

「義とするために復活させられた」

2018年09月11日

ローマの信徒への手紙 4章 19節～25節 そのころ彼は、およそ百歳になっていて、既に自分の体が衰えており、そして妻サラの体も子を宿せないと知りながらも、その信仰が弱まりはしませんでした。彼は不信仰に陥って神の約束を疑うようなことはなく、むしろ信仰によって強められ、神を賛美しました。神は約束したことを実現させる力も、お持ちの方だと、確信していたのです。だからまた、それが彼の義と認められたわけです。しかし、「それが彼の義と認められた」という言葉は、アブラハムのためだけに記されているのではなく、わたしたちのためにも記されているのです。わたしたちの主イエスを死者の中から復活させた方を信じれば、わたしたちも義と認められます。イエスは、わたしたちの罪のために死に渡され、わたしたちが義とされるために復活させられたのです。

パウロはアブラハムに関し、「死者に命を与え、存在していないものと呼び出して存在させる神を、アブラハムは信じ、その御前でわたしたちの父となったのです」と書いて、死者に命を与え、無から有を呼び起こす神を信じる信仰に生きていたと称賛した。アブラハムは、彼の子孫は天の星のように増えるという神の約束を信じた。アブラハムは子どもが生まれないうまま、およそ百歳になり、自分の体は衰え、妻サラの体も子を宿せないと知りながらも、全能の神に対する信頼は弱まることはなかった。むしろ信仰によって強められ、神を賛美した。それは、神は約束したことは実現させる力をお持ちであると確信していたからである。だから、神はアブラハムの信仰を義と認められた。パウロは、アブラハムの全き信仰について述べている。

ヘブライ書においても、同じようにアブラハムの信仰を称賛している。11章 11節、12節で、「信仰によって、不妊の女サラ自身も、年齢が盛りを過ぎていたのに子をもうける力を得ました。約束をなされた方は真実な方であると、信じていたからです。それで、死んだも同様の一人の人から空の星のように、また海辺の数えきれない砂のように、多くの子孫が生まれたのです」と書いています。新約聖書においては、アブラハムは「信仰の父」として理想の信仰者像に捉えられている。しかし、旧約聖書のアブラハム像は必ずしも、そうではなく、率直に迷う姿も伝えている。神から受ける報いの大きいことを告げられた時、創世記 15章 2節、3節で、「『わが神、主よ。わたしに何をくださるというのですか。わたしには子供がありません。家を継ぐのはダマスコのエリエゼルです。』アブラムは言葉をついだ。『御覧のとおり、あなたはわたしに子孫を与えてくださりませんでしたから、家の僕が跡を継ぐことになっています』」と答えている。更に、子どもが生まれないう妻サラの申し出を受け、サラの女奴隷ハガルにより、イシュマエルを生み、自分の子どもにしようと企んでいる。アブラハムも完全な信仰にあった訳ではなく、不信仰に苦しんだこともあった。神の約束をイサクの誕生によって確信し、独り子イサクを献げよという神の不条理な求めにも、従順に応える信仰に高められている。パウロは、このアブラハムを義としたと言い、しかし、彼が義と認められたのは、彼だけでなく、私たちがためであったと書いている。それは、主イエスを死者の中から復活させた方を信じれば、私たちが義と認められるからである。イエス・キリストは、私たちの罪のために死に渡され、私たちが義とされるために復活させられたのである。「義」は主イエスの十字架の死により、そして、主イエスの復活により、確かなこととして与えられるのである。